

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆7月経常黒字、15.6%増の2兆9889億円 旅行収支の黒字が拡大

・財務省が発表した7月の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引を示す経常収支は2兆9889億円の黒字。黒字額は前年同月比で15.6%増。旅行収支の黒字が拡大。経常黒字は2カ月ぶり。貿易収支は3999億円の赤字。前年同月から赤字幅は拡大。輸出額は24.1%増の11兆2561億円で、アジア向けに半導体などの電子部品が好調。

◆8月の企業倒産、3%増の830件 飲食業や建設業が増加

・東京商工リサーチが発表した8月の全国の企業倒産件数(負債額1000万円以上)は前年同月比3%増の830件。飲食業の倒産が目立った。人件費の高騰や従業員の退職といった人手不足、物価上昇によるコスト増が影響。倒産件数は3カ月連続で前年同月を上回った。8月としては2012年以来14年ぶりの高い水準。負債総額は27%増の1447億円だった。

◆8月の街角景気、4カ月連続上昇「持ち直しの動き」に上方修正

・内閣府が発表した8月の景気ウォッチャー調査(街角景気)は、足元の景気を聞いた現状判断指数が前月比0.7ポイント高い46.4となった。4カ月連続で上昇。「持ち直しの兆しがみられる」から「持ち直しの動きがみられる」へと、2カ月ぶりに上方修正。2～3カ月先の経済状況を聞いた先行き判断指数は前月比で2.5ポイント高い48.3だった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆大成建設、国内初「CO2で地熱発電」 地下水使わず環境負荷小さく

・大成建設は二酸化炭素(CO2)を温めて発電する国内初の地熱発電の事業化に乗り出す。これまでの地熱発電に必要な豊富な地下水が不要になり、発電時のCO2排出量削減も見込める。立地の制約が少ないため、潜在力がありながら進まない地熱発電の普及を後押ししそう。

◆東芝と信越化学、寿命1.5倍のペロブスカイト太陽電池 世界最高水準

・東芝と信越化学工業は新潟大学と連携し、耐久性能を先行品の1.5倍に高めた次世代ペロブスカイト太陽電池を開発。現時点の世界最高水準で、2030年代の製品販売を目指す。同分野で量産技術を蓄積する中国勢に耐久性能で対抗。東芝が発電部分を担当し、信越化学工業が封止材の製造を担う。

◆太陽光パネルの銅線ケーブル盗難防止 日清紡系が切断検知システム

・日清紡ホールディングス子会社のディー・クルー・テクノロジーズは太陽光発電パネルの銅線ケーブルの盗難を防ぐシステムを開発。ケーブルを切断する際の異常振動を検知しリアルタイムで監視員に通知。太陽光発電のyh(横浜市)と共同で太陽光パネルのケーブルに取り付けるセンサーを開発し、11月に販売開始する。

《 注目商品 》

■LIXIL、マンション用内窓の施工対応範囲を拡大

・リフォーム内窓「インプラス」に、窓枠の奥行き寸法の対応範囲を拡大したマンション用商品を発売。「マンション用インプラス」は、枠の設置スペースを室内側に逃がすことができ、持ち出し幅を従来の6.5mmから13mmへと2倍に拡大。施工の対応範囲が広がる。



■東芝ライフスタイル、「大快」のフラッグシップモデル「DR-C7シリーズ」

・ルームエアコン「大快」の新製品として、フラッグシップモデル「DR-C7シリーズ」9機種を10月下旬より順次発売。全機種で新省エネ基準(目標年度2027年度基準)を達成するとともに快適性も向上。冷房・暖房能力を高めることで、夏はより素早く冷やし、冬は安定した暖かさ。



■電動工具ブランド「HiKOKI」から36Vコードレスセーバソー「CR 36DSA」

・36Vコードレスセーバソーの新製品CR 36DSAを販売開始。低振動・高耐久で解体作業に適したコードレスセーバソー。電池の防振構造とギヤ耐久性向上のための新構造を採用したことにより、高耐久と低振動を両立し快適な作業の提供が実現。

